

令和 4 年夏季号 (Vol.88)



- New Approaches to Chito-Ryu
- すばやい太刀さばきに...(P7)
- 点を繋ぐ (P9)
- Dan Gradings (P10)
- 食わず嫌い (P11)
- 第17回靖国奉納演武 (P12)
- 旅紀行/雨宮神社~青蓮寺

力必達

国内外のグローバリスト
主義者達の世界覇権という
意図的なたくらみで引き起
こされた武漢ウイルス禍

(コロナウイルス-パンデミック/プランデミック)
が、マスコミを通じて嘘の情報が流布され、この2
年以上の間全世界が攪乱状態に陥りました。

そして現在、世界の多くの国は沈静化に向かっ
ています。しかし国内では、自公政権が、この異常な
コロナプランデミック (プラン=画策された) を、
ロシア-ウクライナ紛争あるいは脱炭素社会実現と
やらに結びつけて、邪悪で陰険な政策 (ワクチン接
種・マスク着用等など) が続けられています。

その影響は、社会全般及び高齢者から幼児の幅
広い年齢層へ広がり、何とも言えない閉塞感が漂い、
政府への疑念が深まってきています。正直、いつ終
息するか?…いつになったら普通の生活に戻られ
るのか?とのイライラ感と腹立たしさは私だけで
はないと思います。そしてそんな状況の中、安倍晋
三元総理が暗殺される大事件 (7月8日) が引き起
こされてしまいました。

このような暗く不安な状況の下でのレポートは、
本来ならば明るい方向性を感じさせる内容を取り
上げなければと思うのですが……、現在の日本の政
治があまりにも酷く、国自体の存続に黄色信号が灯
っている状態だということもしっかりと認識しな
ければならないと考えるのです。

このような理由から、少し堅苦しいのですが「空
手と教育」をテーマに挙げレポートの作成をしてい
きます。

空手と教育 I

今日、沖縄が空手の聖地と呼ばれるようになった
歴史の背景には、沖縄特有の手 (ティー) を体育格技

として体操化そして学校体育の授業に導入された経
緯が原点にあると考えられます。その歴史に尽力さ
れた人物が、千歳翁の恩師の一人でもあった花城長
茂先生です。

今回は、花城先生が学校教育に手 (空手) を取り
入れるまでの話と武術の変遷について考えてみたい
と思います。

花城長茂先生

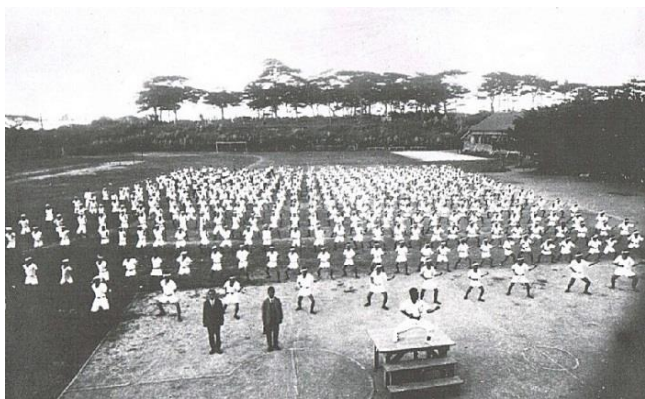
琉球王朝の統治が終わり沖縄県の新設から 11 年
たった頃、沖縄では親日派と親清王朝派が激しく対
立していました。この「世替わり」そして明治政府
が富国強兵を目指している中、1890年に花城長茂先
生は、21歳で同じ手修業者の屋部憲通氏ら沖縄出身
者 9人と共に、下士官養成機関「陸軍教導団」に真
っ先に志願したのです (沖縄に徴兵令が施行される
8年前)。そして、先生は沖縄で最初の職業軍人とな
り、日清戦争 (1894~95年) に従軍しました。(戦後、
周りの人達からは『花城軍曹』と呼ばれていたそう
です)。

近代日本初の対外戦争となった日清戦争は、沖縄
にとって大きな分水嶺となりました。結果は日本の
勝ち軍となり、当時、清朝を頼みに琉球再興を目指
していた親清朝派の勢いは衰え、「日本化」が進んで
いったのです。

教育においても、沖縄の同化政策を視野に学校教
育が進められ、1880年に小学校、中学校、師範学校
が設立され日本語 (共通語) での授業が始まりまし
た。そして 1905年、県立中学校 (現・県立首里高
校) で体操の授業に手 (空手) が導入されていった
のです。

そこで指導したのが教諭になった花城長茂先生で
す。先生は師匠であり沖縄特有の手 (ティー) を体操
式に変えた糸洲安恒翁 (※) を招へいし、授業が開
始されたのです

(※ 首里手の祖。糸洲翁は古くから伝わる型・ピンアンを若い学生たちに教えそして普及させるため、急所攻撃などの危険な技を除き体育格技として体系化されました。その型の一つが「平安(初段～五段)」の五つの型で、流派によってピンアンあるいはヘイアンと呼称しています。)



— 大正時代 —



— 首里城前にての練習 —

さて、江戸時代、全国には各藩の藩校とは別に民間の寺子屋(私塾・道場)が約20,000か所以上あり、子供たちは自由に伸び伸びと学問を学ぶことができていました。

しかし明治維新後、政府は富国強兵の名の下に平均化した知識(国語、算数、理科、社会……)を教えるという名目で、軍隊教練を基調とする管理教育に移行しました。(上の写真からもその雰囲気の一部が感じ取られるのではないのでしょうか?)

管理教育とは何か? 当時の解説では、「学校あるいは教員が児童・生徒の在り方を一方的に決定し、これに従わせる方式の教育方法・方針で、特徴として、児童・生徒が学校の意思決定に関与できず、出来たとしても非常に限定的なもの」とあります。

この制度は、大東亜戦争後のGHQ(アメリカ政府が設置した対日占領政策の実施機関)による日本人洗脳システム「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム=日本国と日本人の自尊心を、自虐史観を大上段において骨抜きにする/War Guilt Information Program(1945~7年間)」によって日本悪玉論を無理やり押し付けられ、さらにそこへ、過度な受験競争あるいは偏差値重視で将来が決まるという偏った風潮が加わったのです。そして現在、子供たちは“管理+反日+偏差値教育”と云う、非常に息苦しい学校生活を強いられている状況に陥っていると言っても過言ではありません。

その管理教育と共に起った事が、古来より伝承されてきた武術の変遷です。

それは先ず名称で、武術→武道、剣術→剣道そして柔術→柔道となりました。次に、木刀から竹刀剣道そして畳柔道といわれる競技を中心とした形態の変化です。

では空手はどうでしょうか?手(ティー)が空手(からて)となって一般へ認識されるようになったのは大東亜戦争後です。そこには千歳翁の進駐軍(連合軍)への空手の指導(※)そして翁の小学校の先生であった船越義珍先生が指導した東京の各大学の空手道部を中心とした普及活動があり、彼等先達の血のにじむ努力が下となって、国の内外へ大きな広がりを見せていったのです。

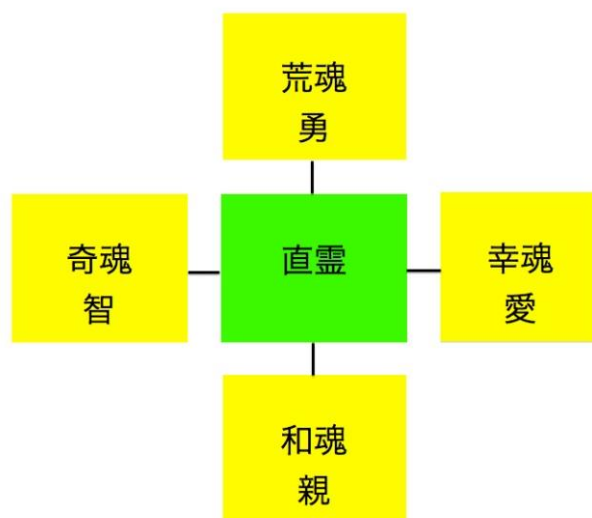
※ カナダ空手道の父と言われる Tsuruoka Masami 先生(連合軍の通訳)、アメリカ空手のパイオニアである William Dometrich 先生(US. 空挺部隊)の両者は千歳翁の弟子です。

しかし、柔道・剣道と同様に競技中心の流れに追随するようになり、結局、現在の管理教育が生み出した顛末と同様に、空手も競技試合・勝負偏重となり、冒頭に述べた体育格技・体操化として出発した空手が、競技を中心としたスポーツ空手となり、今ではオリンピックカラテといわれるまでに変質したのです。

私はこれらの変遷(経緯)は時代の流れと認識し否定はしません。しかし、古流唐手(古伝の手)を修業する私は、空手(徒手空拳)と古武道(武器術)に分けた現代の空手のあり方を否定します。何故ならば私は、古流唐手の教えである“空手と武器術は

両輪の関係”を守っているからです。次に競技に特化し試合のための体操化されたスポーツ空手ですが、これは先達が述べた「体育格技」が的を射た言葉と理解しています。ですが私は、自分自身の身体がその体操化した空手の動きにたいして拒否 (いやいや) をしてしまうので練習はしません……否、できないのです。その理由は、身体の方法 (しめ・しぼり・練り、ねばり・まとわり) が全く違い、加えて参考となる技法理論 (丹田回路・剛柔法など) を見聞することが無いからです。

今回の I の結論としては、この変質した空手を見て、花城長茂先生や糸洲安恒翁の先人達はどのように感じられているかを知りたい思いと、それでも日本武道の潜在意識に「直霊 (なおひ)」が鎮座していることを信じるのです。



<旅紀行> 雨宮神社 熊本県人吉市にはトトロの森と呼ばれる場所があります。田園風景に、こんもりと現れるトトロの形をした森。その森の頂上にあるのが「雨宮神社」です。結界の張られたしめ縄、動き出しそうな木の根。シャンシャン (三産) くぐりと呼ばれる、天然巨石をくぐる奥の院。

階段先に祀られている「雨宮神社」。ここは、鎌倉時代から約 700 年の長きに渡り続いた相良藩の産土神で、相良の殿様の雨乞い伝説が残るパワースポットです。殿様が「名も高き木末の松も枯れつべし なお恨めしき雨宮かな」「千早ぶる神の井垣も枯れ果てて 名も恥ずべき雨の宮かな」と神社の名前を恨めしく思うような歌を詠った後、願いが叶い、雨が降ったそうである。



王宮神社 多良木地域の鎮守として、相良氏から保護を受けた。茅葺き屋根の楼門は、1416 (応永 23) 年に建立されたもので、日本屈指の古い建築。楼門の内部には、300 年前につくられたユーモラスな表情をした一对の仁王像がある。

笠松橋 東陽村といえば、石工集団「種山石工」で有名です。明治 2 年 (1869 年) 橋本文丈八 (あくる年、橋本勘五郎となる) によって架橋されたためがね橋です。ノミ加工の跡など、石工の技術力を身近で見て感じるすることができます。(福田 脩)

New Approaches to Chito-Ryu Clinic

Last June, Ryusei Karate-Do Canada hosted an open clinic for any karateka with a Chito-ryu background. Called “New Approaches to Chito-Ryu,” the Toronto seminar attracted almost 20 participants from the Ryusei, Canadian Chito-Ryu and Yoshukan organizations. Some of the people had been practicing karate since the mid-1960s.

In teaching the clinic I was assisted by senior Ryusei instructors Matt Mannerow and Rick Going. Before the event, I had heard from different people that they were “stuck” in their training and were looking for new ideas to keep their practice fresh.

In the first session of the day, I stated my belief that karate is like a language. Languages like English, French and Japanese are always changing so are considered “living” languages. Languages like Latin don’t change anymore, so are considered “dead” languages.

The same goes for Chito-ryu — if its teaching vocabulary doesn’t grow and change then it runs the risk of dying. I pointed out that when I trained with O-Sensei for four months, in 1979, I saw him make a number of changes to kata and bunkai during that time. Also I pointed out that Sakamoto-Sensei has a very innovative approach to his karate, using his ideas and insights to create a new karate.

In teaching select bunkai from Niseshi and Henshuho, I explained that if people have been practicing moves for years, or even decades, and they still don’t work, then they should make changes so they are effective. And we explored some variations to demonstrate this approach.

Because a number of the participants were older, I also explored ways to keep karate strong by using a relaxed body with the proper connection, especially utilizing spirals in techniques. Besides the exercises that I showed, we had a session taught by William Forrest, a senior tai chi practitioner who has had experience working with karateka before.

New Approaches to Chito-Ryu

A clinic for Ryusei and Chito-Ryu Karateka

Saturday June 11
10:00 am to 4:30 pm

LOCATION Martialarts.ca's Milliken Dojo:
501 Passmore Ave, unit 3A
Near Markham Road and Steeles Av.
(Northern Scarborough)

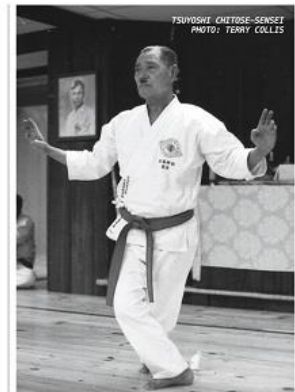
COST \$60: black belts
\$40: kyu belts

SCHEDULE Saturday June 11

10 to 11 am	Understanding the correct body connection
11 am to noon	New approaches to understanding Chito-Ryu, including practice of Dr. Chitose's Tensho kata
Noon to 1:30 pm	Lunch
1:30 to 3:30	Applying tai chi principles to understand karate technique
3:30 to 4:30 pm	New applications of standard bunkai

BOOKING Matt Mannerow:
mannerow@wightman.ca,
519-379-3500

QUESTIONS Peter Giffen,
peter@petergiffen.com
416-729-5633



Taught by PETER GIFFEN and senior Ryusei instructors, including PETER ZEHR, RICK GOING and MATT MANNEROW. A special session on how to apply tai chi principles to karate techniques will be conducted by senior practitioners RODNEY JOHN and WILLIAM FORREST. Overall the clinic will be devoted to new ways to understand and practice Chito-Ryu karate.

CLINIC SPACES ARE LIMITED — BOOK YOURS SOON!

Rick Going taught some variations on body shifting (tai sabaki) motions, and Matt Mannerow did an introduction to Tensho kata. I pointed out that Tensho and other higher kata are not taught to general members in the Japanese or Canadian Chito-Ryu organizations, so we are lucky to have this teaching from Sakamoto-Sensei, who wants to keep O-Sensei's karate alive.

At the end of the clinic, we received lots of positive feedback from participants, indicating that the clinic did give them some insights into how to keep Chito-Ryu karate a living tradition.

—Peter Giffen

Ryusei Karate-Do Canada



Toronto Clinic – June 11 2022

<和訳>

千唐流の新たな取り組みのための講習会

龍精カナダ 教士 ピーター ギッフエン

昨年 6 月、龍精空手道カナダは、千唐流空手家を対象としたオープクリニックを開催しました。New Approaches to Chito-Ryu」と名付けられたこのトロントセミナーには、龍精、カナダ千唐流、養秀館の各団体から 20 名近くが参加しました。中には 1960 年代半ばから空手をしている人もいました。

講習会では龍精のマット・マネロウ先生とリック・ゴーイング先生がアシスタントを務めました。このイベントの前に、いろいろな人から、稽古に行き詰まり、稽古の新鮮さを保つために新しいアイデア

を探しているという話を聞いていました。

この日の最初のセッションで、私は「空手は言語のようなものだ」という信念を述べました。英語、フランス語、日本語のような言語は常に変化しているので、「生きている」言語と考えられています。ラテン語のような言語はもう変化しないので、「死んだ」言語とみなされます。

千唐流も同じで、教えの語彙を増やし、変化させなければ、減じる危険性があります。私は 1979 年に大先生と 4 ヶ月間稽古をした時に、その間に形や分解を何度も変更したことを指摘しました。また、坂本先生の空手は非常に革新的で、自分の

考えや見識で新しい空手を作っていることを指摘しました。

ニーセイシ (11 構) や変手法の中から選りすぐりの分解を教えながら、「何年も、あるいは何十年も練習しているのにうまくいかないなら、効果的に使えるように変えていくべきだ」と説明しました。そして、このアプローチを実証するために、いくつかのバリエーションを提示し説明を行いました。

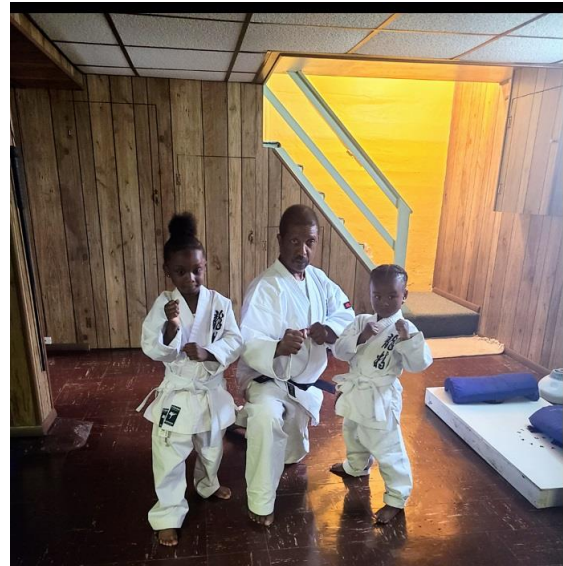
参加者の多くが中高齢者であったため、私はまた、適切な接続でリラックスした体を使い、特に技にスパイラルを活用することによって、空手を強く保つ方法を提案しました。私が行った練習の他に、ウィリアム・フォレスト氏 (太極拳のシニアの指導者で、

以前空手家と活動した経験がある) によるセッションがありました。

リック・ゴーイングは体を移動させる動作のバリエーション (体捌き) を指導、マット・マネロウはテンショの形を紹介しました。

私は、日本やカナダの千唐流の団体では、テンショやその他の高等な形を一般会員に教えていないことを指摘し、大先生の空手を存続させようとする坂本先生からこのような指導を受けられるのは幸運なことだと思いました。

クリニック終了後、参加者からは、千唐流空手道を伝承していくためのヒントが得られたと、多くのポジティブな感想が寄せられました。



The photo of my Grandson Zion who is 4 years old and my Great Grandson Levi who is 5 years old.

Ryusei USA **Roland Fiigs**



栖山観音 相良三十三観音巡礼二十三番札所。108 段の石段を登った森の中にお堂があります。本尊の千手観音像は、永仁年間 (平安後期) の作とされ、球磨郡内で最大の観音像です。本尊の横には四天王のうち特国天や多聞天などの天部像が安置されていて、ともに県指定重要文化財になっています。(福田 脩)

すばやい太刀さばきにはどう対峙する？

宗運道場 4段師範代 甲斐 隆

肘から先（前腕と手）を刀に置き換えてみる。
肘を刀の柄の部分、手の先を刀の先端にあたる切っ先と考える。こうすることですばやい太刀さばきが実現する。

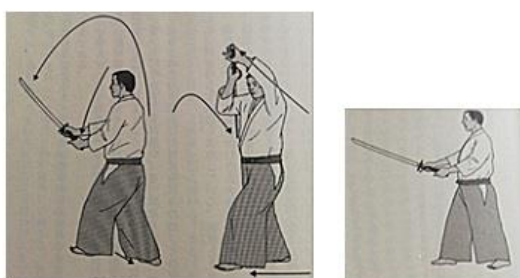
日本刀は柄まで含めて約1mあるが、重心は全体の中央より手元に近い切っ先から60cmほどの位置にある。このため、柄を動かすと重心まわりの回転によって、切っ先が反対向きに大きく動く。

古流の剣術の受け方は、たとえば後ろに置いた左足を斜め左前に踏み出し、相手の刀の軌道を避けて全身を斜め前に移動させる。それと同時に、刀を軽く握った両手を伸ばしたまま正面の頭上に振り上げる。刀の切っ先は右斜め下やや後方へ動く。

刀の握りさえ柔らかければ、刀の重さもあるので、手で操作しなくても刀は自然に右半身に沿って防御する形に移動する。

相手の刀はこの鉛直近くまで傾いた刀の側面に当たる。刀の構造上、基本的には鎧と鎧が擦れ合うようにぶつかり軌道が逸らされる。次の瞬間、刀をそのまま振り下ろせば逆に相手を斬ることができる。受けと反撃が滑らかな一気の動作で行われる。

古流剣術の素早い太刀さばき



- (a) 右足を前に構える
(b) 左足を左斜めに運びつつ、上段から振り下してくる刀を逸らすように受け流す
(c) そのまま振り下ろして反撃する

この例でのポイントは、相手の刀を避けて全身を移動する動作と刀の柄を真正面に振り上げて防御しつつ斬り下ろす動作が同時に行われている事です。

この動きを腕だけの力で、両手で握った柄を左斜め上に持っていけばよいと考えてしまうと全身移動が疎かな腕だけの動きとなって左右の腕のバランスが崩れ、斬り下ろす動作に狂いが出る。意識だけでも柄はあくまでも真正面に振り上げ、真正面に振り下ろしている。



— 植芝 盛平翁が真剣と対峙し、太刀取りをされるところ —

稽古で最も課題としているテーマが、腕や肩や上半身の力の抜き（抜くと云っても脱力している訳ではなく）です。正中線からまっすぐ腕が出て行きながらも、丹田操作で柔らかく受けて次の動作へと繋がる動きといった感じが取れず居着きません。これがなかなか簡単には出来ないのです。



— 弧拳で強く弾き、その方向へ意識が行っているかを見る —

靖国奉納演武大会に向けて練習中ですが、意識し過ぎて固くなり身体が上手く使えていないのです。

大相撲

今場所の正代関は、6日目大栄翔戦から当たる角度



も変わり立ち合いの圧力が掛かり出しました。(左)逸ノ城戦(右)ではその後の身体を柔らかく使ったいなしが効いて押し出しました。押し出した時の腰

の形は袴腰がしっかり取れています。

これは間垣親方(元横綱白鳳)が3日目取り組み後花道を戻った正代にアドバイスされてからの様です。

私も何とか正代関に肖り上半身を柔らかく使った形の演武が出来る様に、坂本先生の指導や福田さんのアドバイスを稽古に活かしていかなければならないと思っています。そして又、これらが会得出来なければ到底太刀さばきに向き合う事すら無謀だと思っています。



粟嶋神社(あわしま) ; 宇土市新開町

同神社では現在「神楽殿」を建設しています。

同神社「御鎮座390年記念事業」の一環、神楽、舞樂の奉納、結婚式、各種祈禱(きとう)を行う施設(木造平屋建てで、延べ床面積328㎡)で同様の設備と規模を持つ礼拝施設は県内では初めてで、全国でも数少ないとの事です。(甲斐 隆)



山田大王神社

永吉庄山田村地頭であった平河次郎藤高の霊を祀る神社です。

相良氏が滅ぼした山田村の地頭であった平河氏の怨霊鎮魂のために建てられた神社。南九州地方のなかでも中世にさかのぼる数少ない建築で、保存状態もとても良いです。

本殿は天文15年(1546年)、拝殿及び神供所は宝暦11年(1761年)、本殿覆屋は安永10年(1781年)、鳥居は延享2年(1745年)の建立です。

特に本殿は南九州地方でも中世に遡る数少ない建築で、保存状態も良く、貴重な存在です。また、拝殿及び神供所、本殿覆屋、鳥居は同時代の建立で、社檀の景観も整っており、高い価値の評価を受けています。

平成2年9月11日付けで山江村の指定文化財環境保全地区に指定されました。(福田 脩)

点を繋ぐ

宗運道場 四段指導員 福田 脩

形には決まった動きがあり、仮にそれを点とします。

点だけをそのまま見ると、あたかも出来ているように見えますが実際にはただポーズをとっているだけにすぎません。実際には点と点をつなぐ作業が大事になるのです。

点で止まる事無く点を通過点として点をつないでいく、その作業が形の稽古であり、点で止まってしまうというのは、形は居ついてはならないという事なのです。

点で止まってしまうのがスポーツ空手です。いくら速く動こうが点で止まってしまうては意味がないのです。

点で止まると技は消えます。点で止まる事なく流れ続いていくことで技は成り立ちます。

これは相対稽古を積む事によってのみ理解する事が出来るようになります。

面白い事に止まらないように動きを繋ぐと自然と螺旋の動きが出来てくるようになります。

これは二十四歩の形が一番分かりやすいかと思えます。

螺旋の動きと言えば剣術でも同じです。

例えば、抜刀からの袈裟斬りは手首を返します。納刀の状態では刀が相手と逆を向いているために、相手を斬るために手首を返して相手に刀を向けるのですが、そこに刀の威力を発生させる螺旋の技が生まれるのです。

また、唐手の武器術でも同じ事が言えます。例えばヌンチャクで、ただ振りかぶって打ちこむよ

りも卍をきって打ち込んだほうが威力を上げる事ができるのと同じです。これも螺旋です。動きの基本の点を繋ぐと螺旋の曲線になるのです。

二十四歩の形において曲線を十字手で描こうとすると、どうしても身体にぶつかってロボットみたいな動きになってしまいます。そこで、腰の立体的な動きが必要になってくるのです。

腰で作った立体的な波の動きが重なり合って螺旋となり手を動かしていくのです。

波の動きは正逆の動きの相互作用で出来ています。お互いに逆の作用をもって1つとなり強大な力を得ることが出来るのです。

腰を逆に使う事、上半身と下半身を逆に使う事等等、これは力を出すためには逆の力も必要だという事を教えているのです。

最近、形を稽古する際、自分の腰の動きだけを注意してやっています。ちょっとした腰の微妙な動きでどう手足の動きが変化するのが分かる様になってきました。

今年は奉納演武大会が開催されます。

最近読んだ「舞うひと」の本の中で書かれていましたが、バレエでも能でも、どんな世界においても舞台の上とは特別な所で、舞台は神聖な場所という感覚は世界共通なようです。

そこでは精神的な要素が大きくて、思いもよらない事が出来たり、普段できない事が出来たりするそうです。

ただそうなる為には、ただ手順を踏んでいるだけの舞いでは駄目で、それは；

点で止まる・・・、ただポーズをとっているだけ・・・、ただ順番通りにやっているだけ・・・では評価のしようがないからなのです。

そんな最悪な事態にならないように、これからも奉納演武にむけて稽古を積んでいきます。

<夏>



昇段 (令和四年度 夏期) / Dan Gradings (2022 Summer time)

参段指導員【San dan Shidojin】



Joel Holland
ジョエル ホーランド
Australia



Angela Domingues
アンジェラ トミンガス
Australia

貳段準指導員【Ni-dan Jun-Shidojin】



Rachinee Peel-Sasaromya
レイチニー ピールサソルマイヤ
Australia



Kate Wright
ケイト ライト
Australia



Nicholas Hazel
ニコラス ヘイゾル
Australia

【初段 Sho dan】



Marcus Piper
マカス パイパー
Australia



Veronica Parra-Mariaca
ベロニカ パラマライカ
Australia



Brianna Du'Bery
ブリーナ デューベリー
Australia



Owen See
オーエン シー
Australia



Jacob Carson
ジェイコブ カールソン
Australia

【初段 Sho dan】



Liana Hammersley
リアーナ ハムスリー
Australia



Jacey Helyard
ジェイシー ハリヤート
Australia



Gemma Hawley
ジェマ ホーリー
Australia



Isabel Helyard
イザベル ハリヤート
Australia



- 風 鈴 -

食わず嫌い

埼玉越谷道場 埼玉 山内 博

ついに、靖国神社奉納演武が、開催と決った。実に3年振りの事である。

さて、何を演武すべきか？と思案した時、最初に浮かんだ事は、棍！それも、過去の演武にまったく満足出来ない「佐久川の棍」そして、同じく、不甲斐なさしかない、轉身、三十六歩、龍山でした。

「マンネリ、無難」、また、同じ事をやるのか！と、頭のなかでサイレンが鳴りました。たしかに、取り組みたい事ではあるが、これは違うぞ、と思っておし。では、何に取り組むべきか？

じつは、以前より、ナイハンチン演武に対する憧れを、ブーツと持っていたので、コロナ世界、最初の靖国演武に良いのではとも考えたのです。しかし基形を演武するのは、そこからの展開を考えると力不足が否めません。

八方塞がり…何をすれば良いのか？ ナイハンチンではない、何かを…。

思案に暮れるなか、突然、「ソーチン・荘鎮」は、どうか？と、思い至りました。以前、先生のレポートの中にナイハンチンと荘鎮の類似した動作についての記述があり、

「そんな、見方があるのか」と形の奥行きに気付かされた事を思い出したのです。

早速、荘鎮を行ってみました。すると、「荘鎮は、シメ腰を、意識しやすく出来ているのではないか？」と、私の中で強烈な気付きがありました。

「よし！まずは、荘鎮」。そして、次に頭に浮かんだ事は、「荘鎮と云えば、武器は、トンファー」。「…いや、安易すぎる・・・」。

しかし、別の見方をすれば、トンファー自体が、龍山、そして、古流形の、しなやかでいて、芯の通った手首、腕の螺旋動作の稽古に不可欠な、鍛錬具なのではと思いながら振ってみました。すると……、「あれ、トンファーの打突からの、回し打ちって、シメ腰からの、振り腰ではないのか？」何だ、この繋がった感じは？「よし。武器はトンファーに。」

最後に形をもう一つ。これは、すぐに「三十六歩」と決めました。それは、以前より、自分の三十六歩の「軽さ」が、どうしても気に入らず、これは、四股、テッポウの稽古不足！逆に云えば、四股、テッポウをやりこめば、何かしらの手ごたえを感じられるのではと思ったからです。

すると、先生からの演武案に「龍山」とありました。

「あれ、これは、トンファーからの龍山か、これは、少しは精気のある龍への道が見えるかもしれない。」と、思うと同時に、「そういえば、龍山と三十六歩って、似た動作があったよなー、体をひねって投げているような・・・、体をかわしているような……………」

「あれれ、それだけでは無いぞ、荘鎮と、三十六歩にも、似た動作があるぞ、十字交差からの、左右、突き？」

うーん、どうも、荘鎮、トンファー、三十六歩、龍山と、私にとって少しづつ繋がりをを感じる演武項目になっていったのです。

何か今回の演武は、停滞している私自身の空手に、「進めー……」とのメッセージが送られている様に感じてしまいます。

今までの、食わず嫌い（荘鎮、トンファー）を反省し、ここは、素直に行きたいとおもいます。

靖国神社奉納演武に向けて。



青蓮寺阿弥陀堂

鎌倉時代以降（1334～）の多良木相良氏の菩提寺。

多良木相良氏初代とされる相良頼景（よしかげ）供養のために建てられ、郡内に残る中世のな景観の代表的存在。

阿弥陀堂は飛騨の工匠の造作と伝えられている。（福田 脩）



第 17 回靖国神社奉納演武大会

17th Yasukuni Hono Enbu

日 時： 令和 4 年 9 月 18 日(日)午前 9 時～午後 3 時

場 所： 靖国神社能楽堂能舞台・雨天決行

主 催； 第 17 回靖国神社奉納演武大会実行委員会

靖国神社に眠る護国英霊の御霊に拝し奉り、心からの祖国安寧と世界平和を願い
心の武を誠心誠意ご奉納申し上げる所存です

古流唐手龍精空手道



演武形・Enbu-kata

演武者・Enbu-person

1	儀式四方拝 Gishiki Shihohai	四方割・Shihowari	福田 (Fukuda)
		四方拝・Shihohai	坂本 (Sakamoto)
		權の手・Kai no te	山内 (Yamauchi)
2		セイサン・Seisan	福田 (Fukuda)
3		周氏の棍・Shushi no kon	坂本 (Sakamoto)
4		チントー・Chinto	福田 (Fukuda)
5		トンファー・Tonfa	山内 (Yamauchi)
6		ローハイ・Rohai	福田 (Fukuda)
7		サンシール・Sanshiru	山内 (Yamauchi)
8		ヌンチャク・Nuntyaku	福田 (Fukuda)
9		リューション・Ryushan	山内 (Yamauchi)
協和演武・Kyowa-Enbu		十二支・Jyunishi	坂本 (Sakamoto)

和



古流唐手龍精空手道季刊誌

龍手/Ryushu

<http://www.koryutodi-ryusei.com/>



忍